

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有と実践の形として、管理者は地域密着型サービスが求められることや役割など職員に理解浸透するよう努め、職員は理念に基づいた個別性の重視および個別支援に反映できるよう努力しています。	開設当初から「その人らしく安心して暮らせる生活の場」という運営理念がある。管理者のぶれない信念の下、「その人らしく」という利用者の尊厳を一番に考え、日々のケアの中で常に確認し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流とまでは言えませんが、今年度は新発田祭の町内での関わりや、自治防災会や町内清掃に参加など、今後恒例となるような流れができました。	民生委員の理解と協力のもと、自治防災会に隣組として入ることができた。日常的な交流は持っていないが、町内会の作品展に利用者の作った作品を出すなど積極的に参加している。	地域行事などへ無理なく参加している。今後は隣近所の方が気軽に立ち寄りやすくなる雰囲気とスペース作り、町の介護者教室や学生の体験学習の場を提供するなど、地域の一員として日常的な交流を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学で来所された方々に、認知症への理解や支援の方法について話す時間を設けるに留まっています。地域貢献として、どのような形で進めるか交流に応じた段階を踏みたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者様の活動内容や職員の取り組み等を報告しており、様々な角度で話し合いがされます。評価においても、結果や改善状況を必ず報告しており、意見交換されたことは活かして向上に努めています。	地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・家族などの参加の下、2カ月に1度開催している。この2月から新しい試みで、多くの家族が参加できる体制を整え、意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	運営推進会議に全家族へ参加を呼び掛けたり内容の検討を行っている。今後も話し合いや意見交換などを行ない、サービス向上に生かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的に連絡を要する件は頻繁に発生しますが、必要時の連携は図れます。また、隔月で介護相談員の訪問を受けており、終盤のミーティングでは実情やケアの取り組み等を伝えています。	隔月で市の介護相談員の訪問があり、事業所の実情やケアサービスの取り組みが伝えられ協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	技術指導会議で基準についての資料を配布したうえ、勉強会を行い理解に繋げています。職員が二人介助にあたる際、玄関に表示したうえ安全優先の施錠を行います。それ以外は(夏は暖簾をさげるだけ)開放状態にしています。	利用者の自由な行動を尊重し、「人は動くもの」という考えでその原因を探ることから始めている。玄関にはチャイムが活用され、外出しそうな時はさりげなく声をかけ、一緒に散歩するなど自由な暮らしを支援している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に啓発されるよう、職員の視界に入る場所に虐待に係る内容を掲示しています。また、職員の馴れ合いが無意識な行為に陥らないよう、管理者や介護主任は日常的に職員へ指導、注意喚起を行っており、意識できるよう適宜勉強会も実施します。	日ごろのケアの中で無意識な行為を含め、虐待が見過ごされることがないように注意し、現場での個別指導も行っている。勉強会も実施し虐待防止に努めている。	「高齢者虐待防止関連法」について再度学び、具体例をあげて研修を重ねることで質の高いサービスに繋げていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、必要に応じてご家族へ情報提供しています。職員は、各自の研鑽に留まっています。理解と活用に向け、より深く学ぶことが事業所の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様およびご家族様の不安や疑問に対し、入居前から把握に努め段階を踏み説明を行っており、納得に至った時点で契約締結を心掛けています。改定等については、文書で通知うえ対面での説明を以ってご理解を得られています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議の場や面会時において、気軽に意見や要望を聞かせて頂けるよう、職員全員で積極的なコミュニケーションを心掛けています。また、介護相談員の訪問があり、これらで得た要望等は職員が共有して反映させるよう努めています。	家族からは、サービス担当者会議、面会、電話などの折に触れ意見要望を引き出す努力をしている。アンケート調査も実施し、結果を検討、サービス向上に反映させている。	全家族へ運営推進会議や案内を出したり工夫がみられる。今後も家族会、アンケートなど、さまざまな機会をつくり意見や要望がしやすい環境作りを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は定期的に人事考課を図り、管理者と職員が面談をする体制をとっています。管理者は、月例会のほか日常的に意見や提案を聞き、毎月の運営会議で提示できるようになっており、代表者は迅速な協議を可能としています。	月例会、人事考課面接など管理者や代表者と話し合える体制がある。管理者は職員の声に耳を傾け、職業人として喜びが仕事の醍醐味に繋がるよう、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や状況は把握はされていますが、成果や実情を反映した環境や条件については現在整備中です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者の推進のもと、管理者は事業所内において職員が働きながらトレーニング(内部研修)することを実行し、常に力量の把握に努めています。代表者は、法人内部の研修体制を整え、同時に外部研修の受講も実現させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修の現場実習等で、市外の実習先を選定することや交換実習につなげる程度に留まっていますが、今後は多様な目的で交流が図れるよう、テーマ作りから検討しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃から、どのような事でもご本人様が語り易い環境を意識してケアにあたります。初期の段階では、担当職員を中心とした個別の関わりを持って傾聴を進め、ご本人様が要望や不安を表現できる関係づくりから始めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の相談等で、サービスの導入内容や方向性を決めるのではなく、これまでのご家族様の経過を時間をかけて聞かせて頂くことから始めています。その中で、ご家族様が困っていることや不安に思うことに対し、良い方法を一緒に考えます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様をしっかりと洞察し、適切なアセスメントを行ったうえで要望に沿えるようにしています。また、ご本人様とご家族様が必要性を感じていない場合でも、予測されることを説明し、必要に応じて他のサービス利用も検討して頂くように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、一人ひとりの『できること』と『できないこと』の把握に努めています。『できないこと』は個別に支援して、『できること』については、共同生活を意識して日常的に場面を設定し活動できるよう心掛けています。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご家族様が無理なく支援できることは何か把握するため、コミュニケーションに努めています。ご本人様が必要とする支援に、ご家族様も援助できるよう、職員が主体にならない協同を心掛けています。	毎月のお便りで、日々の出来事や、様子、健康状態をお知らせしている。電話や面会時などにも家族の話をよく聞き、コミュニケーションを図り、本人・家族の立場に立った支援がなされている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様や馴染みの方の加齢に伴い、状況が変化しつつあります。現状に即して、可能な限り関係が途切れないよう支援に努めています。	昔から利用している美容室や歯医者に行き続けている方や、お墓参りのために菩提寺へ出かける方など、一人一人の生活習慣を大切にしている。また、友人・知人との交流が継続できるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知レベルの違いなのか、または性格的なことなのかを把握したうえで、パターンに応じて職員がサポートしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、ご家族様の来訪があったり利用者様の活動に支援を頂いたりしています。その中で、ご本人様の近況を伺い必要な時は情報提供や関連機関へ繋がります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員を中心に、ご本人様がどのように暮らしていきたいと願うか、日常の会話や動向を観察して意向の把握努めています。	現在の本人の言葉と行動を大切に受け取り、普段の何気ない会話から本人の意向、希望を拾い上げている。困難な場合は家族からの情報も参考にし、日々の生活から思いを探っていき情報収集に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様から伺うほか、ご家族様からの情報収集を行うことや、以前に利用していたサービス事業所から情報提供を受けることで経過を把握しています。	情報の中からこれまでの暮らしや生活歴を大事にし、その人の理解に繋げている。また、以前利用していたサービスなどの経過の把握に加え、日々の関わりの中で情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりについて、一日の生活パターンを十分に把握しています。心身の状態についても観察を怠らず、ご本人様が有する力を発揮できる時に安心して出せるよう環境整備に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、利用者様のケアによる変化や成果について十分な根拠をもって検討しており、今後の方向性やケア内容に反映させ計画を作成しています。	居室担当職員が中心となり、毎月のモニタリングの後3分間スピーチにて、今の状況について報告し話し合いを行っている。定期的な見直しの他、変化に応じ随時見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は支援経過として記録しており、変化の早期気付きに活用しています。その他、毎日のバイタルチェック表や受診記録もあり、異常の早期発見・対応に役立ちます。これらを用い、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様と協同でご本人様を支援していくことを踏まえ、情報共有のため受診への同行や、一時帰宅への同行、必要なものはご本人様が自宅へ取りに行くことに同行するなどに取り組まれました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	文化会館や図書館など、ご利用者様のペースをご理解頂いていると感じます。その他、避難訓練は消防署員の立ち会いで行い、避難誘導の在り方に助言を受けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療機関について特徴を把握し、ご本人様とご家族様が納得した選択ができるよう支援しています。そのため、主治医と目標を共有して連携をとっています。	入居後も本人・家族が希望するかかりつけ医を継続している。基本的には家族対応となっているが、状況に応じて職員の同行も行っている。気になる症状など体調について報告するなど医療機関と協力体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の人員配置はありません。現在、主治医へ連絡相談としており、ご本人様の状態と必要に応じて、主治医と連携のもと入院紹介や介護老人保健施設等の情報提供となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から、担当看護師やソーシャルワーカーと情報交換を密にして、早期退院の働きかけをしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	高齢や認知症であることに向き合う、ご本人様とご家族様の日々変化する考えに、少しずつですが思いや願いを共有しつつあります。今はまだ、その都度事業所ができることを提示しています。	重度化や終末期の在り方について、事業所としてできるラインを明確にし説明をしている。本人・家族のニーズや思いをくみ取りながら、尊厳をもった最後のステージを支えることができ、関わった職員も達成感を感じることができている。	利用者・家族・主治医と話し合い、「いつもと違う」という観察の目を大切に、終末支援に取り組んでいる。今後もその都度話し合い、想いや願いを取り入れたチームケアに取り組まれる事を期待したい。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で、入職年度の救命講習受講を必修としており、その後は年一回任意で受講となっています。その他、部署において月例会にて利用者様の現状から予測される緊急対応を適宜周知しておきます。	全職員が救命講習にて、救急手当や蘇生法の訓練を受講する機会がある。緊急マニュアルについても整備され見やすい所に掲示されている。また、事例検討を通じて急変や事故の発生時の対応について学んでいる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、年2回の避難訓練を実施しています。災害別のマニュアルの整備や非常持ち出しの点検を行っています。自治防災組織の創立で、協力体制の具体化が課題です。	防災マニュアル、緊急連絡網がいつでも見られるところに設置してある。年2回消防署立ち会いのもと避難訓練も行われている。	今後は地域の人にも避難訓練に参加してもらえるよう、自治防災会や運営推進会議の場で呼びかけ、協力関係が確立することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの生活背景を思い尊重したうえで、ふさわしい接し方と言葉かけを行っています。共同生活ということを充二分に配慮し、談話の中で粗雑な情報の扱いにならないようにしています。	全職員は内部研修にて、人権尊重、プライバシー保護の大切さを確認している。また、日々のケアでは利用者のこれまでの生活背景や立場を大切に、利用者主体の言葉かけがなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の判断能力や意思表示手段に応じ、伝達および疎通が容易になるよう支援しています。自由献立の参加や、飲みたい物の選択など、日常の些細なことでも自己決定ができるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは、おおよその時間が決まっていますが、職員は利用者様のペースに合わせ順応しています。業務の流れが崩れてもフォローし合い、利用者様の時間に影響が生じないように対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室での整髪や、好みの洋服を直接ご本人様が選ぶなど、店頭へ出向くように支援しています。また、鏡を見れるような誘導や、今日着る衣類をご自分で選べるような状況をつくります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見て触れて、下ごしらえから参加できるようにしています。利用者様の力に応じた調理をして頂き、盛り付けや配膳、後片付けまで職員とともにしています。	利用者の活躍できる場面づくりを支援し、職員と同じテーブルで楽しみながら食事をしている。毎週金曜日の夕食には自由献立の日を設け、自分が作れる得意料理を取り入れるなど、食事を楽しむ工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量や毎回の水分量は、一日の個別目標値を持ち、毎日記録をとり一人ひとりの平常を把握できるようにしています。利用者様の状態や力、習慣に応じた支援を行うための情報として活用しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人様に始めて頂き、最後は職員が磨き直しや洗口剤等の調合を行っています。ご本人様が磨いている間は、自力度に応じたケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は、一人ひとりの排泄のパターンや意思表示の把握に努めており、トイレでの排泄としています。夜間は紙パンツ等であっても、日中は布下着に切り替え、失禁のない生活を可能した取り組みがなされています。	一人ひとりの排泄パターンや排泄リズムを把握し爽快、不快を見極め、身体機能に応じた個別の排泄支援が行われている。誘導は耳元でさりげなく声かけし、羞恥心や不安への配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の内容や量の工夫、咀嚼力、運動量等について日常的に働きかけ、便通の性状や間隔を把握し、予防と自然排便の支援に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や、各利用者様の入浴曜日はおおむね決めていますが、利用者様の体調や状況により柔軟に対応しています。	毎日、午後からが入浴時間ということで、概ね入浴日も定めているが、利用者の体調や希望により柔軟に対応している。入浴を拒む人には、言葉がけの工夫や入浴剤で温泉気分を楽しめる工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は、適度な空調を行うことや適度な空腹解消(あめ、ホット飲料)等でリラックスを図ります。日中は、活動に応じて昼寝も促します。休息が適切なものであるよう、常に活動状況や気分の観察を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報提供を受け、必ず目的や副作用を確認し、要観察のポイントを把握します。また、個人の配薬袋を作り、薬名と効用、用量を明記して誤薬防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を勘案したうえで、一人ひとりの力に応じ、毎日の生活の中に役割を持って活動できるようにしています。毎日がイベントとはなりません。今日は何をしたか振り返れるような一日になるよう心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は、近隣への散歩や近所への買い物になります。普段は行けない場所へは、誕生日の要望として職員と出かけたり、お彼岸や盆暮れなどに合わせてご家族と外出しています。	日常的な外出のほか、月に一度その方の趣味や要望に添って、クラシックを聴きに出かけたり家族と外食に出かけたりと、オンリーワンの楽しめるイベント外出等の支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、利用者様がご自分の財産であるという意識が持てるような支援に努めています。ホームの管理としてご家族様からお預かりした場合でも、遣う時はご本人様の了解を得て、能力に応じた買い物や支払いの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、特別な行為ではなく日常的に使用できるよう職員から促すこともあります。手紙は、相手の方にもご理解頂いたうえやりとりできるように調整します。書くことや投函もご本人様が行えるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、食事時の席だけを決めており職員が誘導します。それ以外においては、不公平感や疎外感を感じないよう、職員が意識して視聴覚に入るものを工夫します。	居間や廊下に花や思い出の写真、作品などが飾られ、家庭的な雰囲気と温かさが感じられるしつらえとなっている。自由空間では座席の配慮がなされ、利用者目線に立って居心地良く過ごせるように工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必ず独りになれる場所として、居室のレイアウトを充実させています。共用空間では、少人数で集う場所がおおむね決まっており、また、そこで何をするか各々流れを持っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだものに囲まれるように、また、配置もできる限り入居前に近づけてレイアウトします。	使い慣れた家具やタンス、大切にしてきた趣味のものなど、馴染の品々を持ち込み、一人ひとりが自宅に近い環境で安らげる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方がわかる目印や色で工夫し、自立動作に結びつなげ、目的が達成されるよう支援しています。		